

令和7年度「広島広域都市圏地域貢献人材育成支援事業」成果報告書

1 学校名

広島県立世羅高等学校

2 教育活動

区分 ⑦地域におけるにぎわいの創出

テーマ 広島平和ミツバチプロジェクト

～平和都市広島を都市養蜂で守り、地域活性化を目指す～

3 連携した市町

広島市、世羅町

4 連携した企業、団体等

中一区 187 号線地域活性化委員会、中区役所、世羅町役場

5 参加した生徒

広島県立世羅高等学校 農業経営科 3 年生 6 次類型専攻 10 名

広島県立世羅高等学校 農業経営科 2 年生 6 次類型専攻 11 名

広島県立世羅高等学校 農業経営科 1 年生 32 名

6 活動

(1) 目的

広島市は世界で初めて原子爆弾による被害を受けた。原爆が投下された直後は75年は草木も生えぬ」と言われるほど悲惨な状態であったが、焼け野原の町をもう一度、緑豊かな町にしようと「供木運動」が始まり、全国から樹木6,000本が寄付された。そうして現在、平和大通りは緑豊かな木々の葉が茂る、復興と平和の象徴として大切に守られてきた。しかし、植樹されてから長い月日

がたち、寿命や病気のため倒木事故が起きている。広島市が樹木の管理を行っているが、維持管理にはお金が必要である。そこで、平和大通りの活性化と景観を守るため「中一区187号線活性化委員会」で都市養蜂を行い、蜂蜜の販売で得たお金で平和大通り樹木保全と都市養蜂を中心とした関係人口増加をはかり、地域内外の人のつながりの創出を行うことを目指す。

(2) 内容

① 蜂蜜の生産・商品化

5月1日から6月30日まで、世羅高校から毎週広島市に通い、ミツバチの飼育管理を行い、中一区187号線地域活性化委員会、ボランティアの方々の協力により200kg



gの蜂蜜を採集できた。また、高校に蜂蜜を持ち帰り、商品化に向け、瓶詰め作業を行った。

② 蜂蜜を使用した商品開発

7月世羅高校にて、蜂蜜を使用した商品開発を2・3年で行った。スノーボールクッキー・はちみつケーキレシピを完成させた。



③ 平和大通りイベント

中一区187号線地域活性化委員会主催にて、蜂蜜を活用したイベントは開催できたが、学校行事と重なり、昨年のように高校生が参加し、対面販売することができなかった。

④ 蜂蜜・蜂蜜を使用した商品販売

6月28日世羅高校文化祭（世羅町）にて、蜂蜜、蜂蜜を使用した商品を生徒が販売した。

8月10日大田夏まつり（世羅町）にて、生徒が蜂蜜を販売した。

9月20日せら夢まつり（世羅町）にて、蜂蜜を使用した商品を生徒が販売した。

10月25日フードフェスタ（広島市）にて蜂蜜、蜂蜜を使用した商品を生徒が販売した。

10月31日スペシャリストの祭典（広島市）にて、蜂蜜を使用した商品を生徒が販売した。

11月2・3日全国農業高校収穫祭（東京都）にて蜂蜜、はちみつケーキを生徒が販売した。

令和8年1月28日はちみつケーキを世羅町からの贈り物として広島カープ宮崎キャンプの差し入れとして贈られた。

⑤ 小中学生との連携

6月12日世羅高校にて、せらひがし・甲山小学校連携授業を行い、生徒がミツバチクイズ、採蜜体験を実施した。

8月2日世羅高校オープンスクールにて、中学生31名、保護者23名を生徒が指導して採蜜体験、はちみつケーキ作りの体験授業を実施した。

8月27日世羅高校にて、世羅中学校の総合的な学習の時間での連携、蜂蜜を使用した商品開発サポート及び蜂蜜の提供を行った。

12月12日世羅高校にて、世羅小学校と連携授業、蜂蜜を使用したデコレーションカップケーキ作りを生徒が指導して実施した。

⑥ 取り組み発表

6月24日農業クラブ広島県大会（庄原市）「意見発表会」に出場し、最優秀賞受賞した。同大会「プロジェクト発表会」に出場し、優秀賞を受賞した。

8月8日 農業クラブ中国ブロック大会（岡山市）「意見発表会」広島県代表として出場し、優秀賞受賞した。

11月23・24日ミツバチサミット2025（茨城県つくば市）にて、全国学生養蜂サミットにて取組発表を行った。

2月3日世羅高校農業経営科学習成果発表会（世羅町）にて、取組発表を行った。

2月9日広島広域都市圏地域貢献人材育成支援事業における活動成果発表（呉市）にて、取組発表を行った。

2月13日「学びピア（世羅高校学習成果発表会）」（世羅町）にて、取組発表を行った。

2月14日クボタ・毎日地球未来賞授賞式（大阪府）にて、奨励賞を受賞し、取組発表を行った。

2月15日TSS「ミライのヒカリ」にて取組が放映された。



(3) 効果

【事業効果】5月1日から6月30日まで、世羅高校から毎週広島市に通い、ミツバチの飼育管理を行った。この活動を、ライブ中継で学校に繋ぎ、学校運営協議会委員の方や世羅高校の先生方に見てもらうことで、活動の実際の様子を知ってもらえた。学校外での活動であるが、通信環境普及の活用方法実践にもつながった。多くの取材により広島平和ミツバチプロジェクト

トの認知度も上がり、数多くのボランティアの方が参加、協力してくださり、目標である 200 kg の蜂蜜を採集することができ、関係人口増加となった。また、商品化するため、蜂蜜を高校に持ち帰り、瓶詰作業を行った。蜂蜜を使用した商品開発まで行なうことでプロジェクトにかかわる生徒全てが、何らかの形でミツバチに関わる作業に携わることができた。そのおかげで、蜂蜜や蜂蜜を使用した商品に愛着を持ち、対面販売では、自信をもって自分の言葉で商品を説明することができた。多くの場所で蜂蜜販売を通して、学校外の方にも広く知っていただく機会を得るとともに、生徒が実際に生育から採集まで携わった蜂蜜という農産物を自ら販売し、売上金を「中一区 187 号線活性化委員会」へお渡しすることができた。本事業により、養蜂を通して平和大通りの保全活動を行うことで、平和活動に貢献できる人材育成になり、意欲的に取組む生徒を増やすことができた。

【課題認識】「中一区 187 号線活性化委員会」様より、平和大通りの樹木保全と地域におけるにぎわい作りを行いたいと課題を説明していただいた。平和大通りの樹木の倒木事故についてはニュースでも取り上げられ、課題として周知していたが、にぎわいを作ることについては、都市部だから常に人でにぎわっているのではなく、魅力ある街を発信し続けなければ、人の流れは簡単に遠のくこと知った。

【実効性】3 年生の課題研究の授業を中心に現地で行う飼育管理、採蜜と学校で行う瓶詰は 2 年生、1 年生も行い、農業経営科の生徒が多く関われるように行った。また、高校でも蜂蜜を活用した焼き菓子の商品開発を行った。さらに、世羅町内の小学生、中学生の連携授業では「広島平和ミツバチプロジェクト」の学習を発表し、養蜂について学ぶだけでなく、平和学習につながる取組を行った。高校生が指導者となることで、養蜂の学びを深め、小さな子供へ分かりやすく伝える方法など考えながら実践できた。

【先駆性・独創性】都市養蜂の取り組みは日本全国で行われているが、平和教育を取り入れている都市養蜂は初めての試みである。この取組は、SDGs の 11 番「住み続けられるまちづくりを」と 15 番「陸の豊かさを守ろう」にあてはまり、環境指標生物であるミツバチの飼育管理を通して、環境保全活動を行うことができた。また、平和大通りの樹木を保全することで世界に平和を発信する世界遺産である原爆ドームとともに平和大通りの大切さを学ぶ平和教育にも繋がり、16 番「平和と公正をすべての人に」もあてはまる活動となった。

【継続性・発展性】今年度は戦後 80 年目の節目の年であり、次の世代にも平和の大切さを語り継ぐためにも、平和大通りの多くの方の思いのこもった樹木を守る大切さを学んだ。世界に平和を発信し続けるためにも、農業高校生だからこそできることがあることに誇りとやりがいを感じ、プロジェクトを継続していきたい。その継続に対し、高校だけでなく、中一区 187 号線地域活性化委員会、中区役所、世羅町役場が協力してくれたことで活動の幅が広がった。活動がテレビ、新聞、雑誌で報道されたことで、活動に対して興味関心を持つ方を増やすことができ、飲食店での蜂蜜の活用や集客など関係人口増加にもつながる発展となった。